

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176500872		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・清河寺		
所在地	埼玉県さいたま市西区清河寺1088-6		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 28 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様個々の個性を引き出せる様に様々なレクリエーションを実施しております。又個別の運動や体操を取り入れ自立した生活を続けて行かれる様支援しております。日々の業務に追われる事もありますが、事業所理念の「利用者様の意志および人権を尊重する居宅サービス」「明るい笑顔あふれるホーム」を目指し入居者様とのコミュニケーションを大切にし会話を多く持つ様に努めております。又ご家族様が面会に来られて際には、近況を報告しご家族様との信頼関係を築ける様努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長は、職員が一体となって支援を行うために、職員一人ひとりと話をする時間を作るように努めている。身体拘束についての研修では、拘束に当たる行為についての資料を配布し、テスト形式での知識定着の確認と、その場での答え合わせをして説明することで、職員が正しい考え方を覚えられるよう工夫している。更に、拘束に当たる行為の防止策として、会議では、自分が無意識のうちに強い口調にならないよう、チェックリストを用いて振り返りをする時間を設け、チェックの着いた数によって、ストレスが溜まっていないかの気づきを得られるようにしている。3ユニット合同のふれあいカフェは、違うユニットで生活する利用者が一緒におやつを食べる企画であり、外出が難しい時にも、日頃と少し違う人とおしゃべりを楽しめる時間となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の意志および人権を尊重する居宅サービスを目指す」「明るい笑顔あふれるホーム」を事業所理念に挙げ、入居者様とのコミュニケーションを大切に毎日笑顔を引き出せる様努めています。	理念は、前ホーム長が職員の意見をとりいれて考えたものである。管理者は、新人研修、虐待防止、身体拘束廃止委員会等で、人権を尊重する考えを確認し、職員に理解させている。	職員間の理念のとらえ方のすり合わせを検討している。事業所が目指す方向性を一致させることで、職員のチームケアのレベルが更に向上することを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はありませんが、散歩の際にご挨拶を交わしたり、自治会に加入している為神輿の立ち寄りがあります。	地域のお知らせは、民生委員が届けてくれる。事業所の夏祭りには、近所に声をかけ、地域の親子と利用者がふれあう機会となった。散歩の際や庭の柵ごしに近所の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会の行事などに参加し、認知症の理解、支援についてお話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回地域包括やご家族様参加の家族会を開催。ご家族様同士談話する機会を設け意見をサービスに反映させている。	運営推進会議は、家族会と同日に開催しており、家族の参加もある。主に利用者の様子や事業所の状況報告の場となっているが、民生委員の参加協力も得られる様になり、新しい視点の意見も活かそうと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加も働きかけている。	市とのやりとりは、本社担当者が行うことが多く、管理者は、事故報告や介護保険上の事務的な手続きで市の担当者に関わることが多い。担当者とは、行き来や電話等で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていないか毎月の会議で話し合いを行い、職員全体が理解できる様取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会、高齢者虐待防止委員会において、何が拘束に当たる行為なのかを学んでいる。理解を深めるために、簡単なテストを行ったり、拘束や虐待を行わないためのチェックリストを用いて、要注意な状態に気づける機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がない様職員全員が正しいケアを行っているか確認し意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に自己啓発として日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修に参加している職員もいる。ユニット会議等で報告をし学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間を設け説明し、疑問も伺い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や普段の面会時にご家族様の意見を頂いた際は、職場会議にて報告をしている。参加できなかった職員にも会議録にて全員に周知する様にしている。	家族会を定期的に開催し、家族同士が交流でき、意見が言いやすいように全員が話をする時間を作っている。話の内容によっては、個別に話をする場を設ける配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職場会議を実施している。又ユニット会議も月1回実施し職員同士の意見交換を行っている。	ホーム長は、一人ひとりと向き合って話をする時間を作るように努めている。物品の購入や職員の配置等の提案や要望があれば、それが活かせるように検討し、全員が会議で発言できるよう、役割を考え、個々の成長を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が得意分野で自身を活かし活躍できる環境を作っている。又人事評価を行い適正に行える様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示板を利用し様々な研修を掲示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の研修を通じ名刺交換をするなどネットワーク作りをしている。又フロアでは身体介護の実習も行いトレーニングをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とコミュニケーションを多くとる事で信頼関係を築いており、不安・要望がある際には解決できる様心掛けている。ユニット会議で担当者が責任を持って問題点等を提案しカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時から時間をかけてご家族様との関係作りに力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に実調を行い、暫定プランを作成し職員同士ケアの統一を図り、的確なサービスが提供できる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に家事等をして頂き役割意識を持つことで生きがいを見つけて頂く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活等をご家族様にお伝えし、ご家族様も一緒になり考え、ケアの方向を見出しご本人様に良い支援方法考え提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に自由に来れる様配慮しご家族様同様丁寧な対応に努め支援している。	友人の来訪があり、居室で話をしたり、リビングで将棋をする方もいる。高齢化がすすみ、馴染みの場所への外出は難しい状況であるが、一番の馴染みの関係である家族との関係が途切れないよう、心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話を持てる様、職員が言葉の掛け渡しをし孤立しない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も転居された場所まで出向き面会し、必要に応じ相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日コミュニケーションを多くとる事で表情や行動からご本人様の希望、意向を把握する様努めている。あるいはカンファレンスを実施しケアの方向性を見出している。	一人ひとりの行動や表情を良くみることで、その行動で何を訴えているのかを気付けるように努めている。気づきは職員の連絡帳や生活記録の特記事項に記し、共有している。家族に以前の暮らしを聞き参考にすることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の状況等実調調査で得た情報やご本人様、ご家族様から直接た情報を職員全員が周知し、これまでと変わらない生活を送れる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、生活記録、特記事項、連絡ノート等記録を用いて入居者様の把握に努めている。些細な変化も記載し職員全員が情報共有できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様からサービスの評価を頂き、個々にカンファレンスを行う時間を設け。意見・希望を反映した介護計画を作成している。	新しい入居者には、本人、家族の希望をもとに、暫定の計画を作り、生活を共にしながら、その方の出来ることできないことを把握した上で、呼び方、体操、傾聴等その人に必要な支援を話し合って作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、生活記録、特記事項、連絡ノート、サービス実施表などの記録を用いて入居者様の把握に努めカンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない様職員1人1人がご家族様の状況を踏まえ意見を上げ話し合う事で柔軟にサービスに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園や神社、ホームセンター等地域資源を利用し、散歩やお参り、買い物など外出する機会を増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医、医療連携看護師、歯科医、歯科衛生士、薬剤師等と協力体制はできている。必要に応じて関わる医療機関全てに情報を提供し支援するシステムができている。入居時かかりつけ医がある場合は継続受診できる様支援している	かかりつけ医受診の継続か、訪問診療受診かは、利用者、家族が選ぶことができる。医療連携の病院受診は、職員が対応している。夜間も看護師、医師に相談でき、指示をもらえる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回医療連携看護師が来ている為個々に看てもらっている。又、ノートに相談や指示内容を記載し記録を残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医より診療情報提供書を出してもらい情報交換を行っている。協力機関の病院のソーシャルワーカーとも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し医療が必要になった場合には、会社内の特定施設への転居を勧めている。又医療が必要でない方の終末期はどの様にしていきたいかご家族様に要望を伺っている。	重度化した場合の方針については、契約時に説明している。医療が必要となった場合は、選択肢の一つとして、看護師が配置されている同法人の施設を紹介することもある。ホーム長は、家族が病院に行く時は、情報提供の書類を作るか、できるだけ同行して一緒に話を聞くようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり職員は熟知し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。内1回は消防立ち合いにて夜間想定避難訓練を実施し緊急時職員が敏速に動ける様努めている。	火災時の避難訓練は年2回実施している。消防署員より、避難経路、方法等について指導を受け、2、3階の利用者については、ベランダに避難することになっている。食料、水等の備蓄は3日分用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴介助や排泄介助時は、羞恥心に配慮しプライバシーも保護している。認知症であることを念頭に1人1人と会話を持つ時間を設け傾聴し人格を尊重している。	入浴、排泄介助は、羞恥心への配慮を当たり前のこととして行っている。居室は個人の空間である為、必ず利用者に声をかけ、利用者同士の何気ない会話にも利用者の気持ちを考えて、間に入る対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択技を挙げ自己決定できる環境作りをしている。コミュニケーションを多く取り信頼関係を築き思いや希望を表わせる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員が1人1人のペースを大切に何かを行う際には、必ず入居者様の意志を伺い実施している。危険防止の為庭は施錠しているが外気浴の際は職員が見守りのもと出入りできる様に開放された環境提供できる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にてご自分の髪型を決めて頂ける様配慮している。また、ご家族様のご要望がある場合も添える様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人お盆にのせて食事を提供している。持ちづらい方には取ってのついた食器にする等自立した食事ができる様配慮している。食器拭き、テーブル拭き等手伝って頂いている。	分かりやすいように、1人ずつお盆にのせて提供している。食器は、重さや持ちやすさ等、個々の状態に合わせて選び、自分で食べることを支援している。季節や行事に合わせた献立も楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は、専門の栄養士により献立は決まっているが、嚥下低下している方には食事形態を考慮し提供し摂取量を確保できるようにしている。水分摂取量も記録し脱水にならない様補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に口腔ケアを行っている。歯科医、歯科衛生士にアドバイスをもらいご本人の力に応じ実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方も出来る事はご自分で行って頂き、全介助にならない様努めている。又ポータブルトイレからトイレでの排泄への切り替え等カンファレンスで検討し自立に向けて支援をしている。	1人ひとり、どこまで自分でできるか、どんな介助が必要なのかを、会議で話し合って情報共有し、必要ならば医療関係者にも相談している。下肢筋力アップのために、体操をしている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や適度な運動、水分補給を行う事で蠕動運動を活性化できる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を特に決めていなく、ご本人様に合わせて入浴して頂いている。	歌をうたいながら、職員と話をしながら、入浴時間の過ごし方はそれぞれである。入浴を好まない方には、気分の良い時をみて声を掛けている。体が温まっているので、手のマッサージをすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	同じ時間帯に入眠を促さず、共有スペースでテレビを見られたり談話されたり自室で過ごされたりと、個人のペースに合わせた時間を過ごして頂いている。又快適な環境を提供できる様室温にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を用いて内服薬の内容や期間の確認ができる様にしている。又新しく追加された薬については連絡ノートにて情報共有している。減薬についてもDrに相談をし調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に力を活かせる様、掃除や洗濯物畳み、食器拭き等で役割を持って頂いている。全体で行う体操や合唱、散歩などを行い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日時は決めず天気の良い日にはお声掛けにより近隣へ散歩に出掛けている。又ホームの駐車場や庭にて職員が見守りのもと外気浴もされている。ご家族様に協力して頂き通院時に外食される方もいる。	近所を散歩したり、1階の利用者は居間から庭に出て日向ぼっこをしたりしている。上の階の利用者は、玄関先で外気浴をすることもある。七夕の時には、皆で笹飾りをした。花の咲く季節には、車を利用して花見に出かけ、希望があれば、個別の買い物支援も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金はホームでお預かりさせて頂いており、小銭は持たれている方もいる。又希望により日常生活用品購入でお金を使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望がある場合はご家族様への電話や手紙は自由にできる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や悪臭を無くし安心して過ごせる様整理整頓を心掛け掃除チェック表を作り環境を整えておる。季節毎にホールの飾り付けを変え、外出する機会の少ない方にも季節を感じて頂ける様努めている。	歩行の邪魔にならないよう整理整頓をしている。夜間はドアの開閉の音を消して、利用者の睡眠を妨げないようにしている。季節を感じられるよう、壁面には、季節に合ったものをたくさん飾るように心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の居室の行き来に制限をしていない為気の合った方同志談話されている。又共有空間でも廊下の離れた場所にソファを置き1人になれる様にもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご自分のお好きな写真や観葉植物等を置いて頂くなど個々の好みに合わせ居心地の良い環境になる様ご家族様ご本人様と相談している。	生活習慣や身体状態等に合わせてベッドの向きを決め、使い慣れたものや大事にしているものを持ち込みしている。寝る前に本を読む、辞書で調べ物をする等、それぞれの趣味や好みを継続しながら生活できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線に物を置かない様安全に配慮し、トイレの場所が分からない方には壁にトイレの方向を示した紙を貼るなどして自立した生活が送れる様工夫をしている。		